

# ふれあい

2007年 冬 vol. 24

発行日

平成20年1月1日

発行：医療法人 平心会

須賀川病院

広報委員会

須賀川市丸田町17番地 TEL：0248-75-2211

URL：<http://www.h3.dion.ne.jp/~heishin>

E-mail：[sukagawa@d2.dion.ne.jp](mailto:sukagawa@d2.dion.ne.jp)

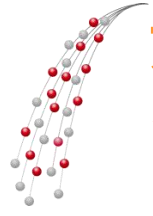


## ◆◆◆◆ 目 次 ◆◆◆◆

- 1面 ・表紙（五月の剣岳山頂）  
撮影：津田 達徳
- 2.3面 ・新年のご挨拶
- 4.5面 ・食事と文化（外科 柿沼雄二医師） / 七草粥
- 6面 ・真皮縫合法について（形成外科 舘一史医師）
- 7面 ・透析室通信（副作用について） / 改善報告
- 8面 ・病院理念・基本方針 / 患者の権利憲章  
クリスマスコンサート / 編集後記



# 新年の御挨拶



院長

津田 達徳

二〇〇八年を迎えて

ここ二〜三年来、日本の医療制度は崩壊しつつあると云われております。

小泉前政権のもとで医療改革、即ち極端な医療費抑制政策が強行され、その結果日本は主要先進国（G7）の中で医療費水準は最低だが、患者負担割合が最高という、大変歪んだ医療保障制度を持つ国となりました。二〇〇六年以来、救急医療や、産科、小児科医療を中心とした医療危機、荒唐が社会問題となり、マスコミでも大きく取り上げられるようになっていきます。

これらは、一九八〇年代以降、四半世紀も継続された、世界一厳しい医療抑制政策と医師養成抑制政策が小泉政権の『最後の一撃』により、臨界点を越えた為に生じたと判断されます。

しかし、人々が常に求めているものは何であろうか。やはり、高齢になっても安

医療難民や介護難民を作らない為に、今後の医療政策、社会保障政策は長期的なビジョンにそって、人々が安心して暮らせる社会を作ることが求められているのではないであろうか。

二〇〇七年頃より、マスコミの医療問題の報道姿勢に変化が生じており、国民の為に医療の質を高めるようにとの論調が目立っており、これらのことが、医療政策にも反映されるのではなからうか。

今年こそは、少しは希望の持てる年になるのではなからうか。是非そうあつてほしいと思う。



管理部長

後藤 法子

新年 おめでとうございます。

昨年はいろいろな御意見を頂いて改善できたことが多々ありました。

ねずみ年なので、忙しく動き回り、ねずみ算式に良いことが多くなるといいなあと思いますが、やっぱり地道に努力していくのが一番だと思いますので、いろいろまた御意見を頂けたらと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。



看護部長 高橋 千嘉子

新年明けましておめでとうございます。患者さんのために、地域のために、そして自分自身のために、何をするべきなのか、原点に立ち返り見つめ直し、目標をもって今年も頑張ります。



四病棟部長 後藤 千佳子

新年 おめでとうございます。

昨年は、健康の大切さを改めて感じる年となりました。笑顔で患者さんに向合うため、充実した一日を過ごすため、皆さん体を大切にして、毎日頑張りました。



三病棟部長 鈴木 洋子

新年 おめでとうございます。

今年、病院機能評価認定審査の年にあたります。病院・看護部理念に基づき、今まで実施してきたことを再確認し、更に医療の安全・看護の質向上にスタッフ一同取り組んでいきたいと考えております。



透析室副師長 吉田 紀子

新年明けましておめでとうございます。今年もスタッフ一同、つらい透析を少しでも快適に過ごすことができるよう、援助していきたいと思っております。患者さんもお自身の体調管理に努め元気に通院してください。



外来主任 西間木 佐知江

新年あけましておめでとうございます。昨年から整形外科の患者さんも増え、多忙な毎日を送っております。先生方と共に、待ち時間の少ない外来を目指しております。何かと行き届かない点があるかと思いますが、スタッフ、心をそろえて頑張りたいと思っております。宜しくお願いします。



中央材料室副師長 佐藤 孝徳

常に思いやりの心を忘れず、質の高い看護を目指し、スタッフ一同、力を合わせて頑張りたいと思っております。



医事課長 鈴木 寿子

新年明けましておめでとうございます。今年四月に点数改正がありますが、そのことで患者さんの待ち時間が超過する事態にならないよう、医事課スタッフ一同、一丸となって頑張つて参りたいと思えます。どうぞ今年も宜しくお願い申し上げます。



栄養課長 常松 直子

今年は、ねずみ年です。ねずみを思い浮かべると、食欲は旺盛で何でも食べ、いつも体を動かしている印象があります。

「健康の維持」に必要なものは、「栄養」「運動」「休養」です。みなさん、ねずみ年にちなんで、「理想的な食生活」と「自分の体力に見合った運動」をはじめてみませんか。



薬剤科長 大橋 一民

患者さんにお薬について分かり易く情報提供できるように心掛け、努力していきたいと思えます。薬局スタッフ一同頑張つていきたいと思えます。



放射線科主任 安藤 貴正

昨年以上に、コミュニケーションを大切に、思いやりのある行動と検査を心がけ、快く迅速に且つ事務的な検査にならぬ様、放射線科一同努力して参ります。宜しくお願い申し上げます。



検査科技師長 箭内 輝美

検査科は、臨床検査を通じて医療並びに公衆衛生の向上に貢献することを目的としています。私たちは臨床検査の専門集団として信頼データ及び迅速な報告を心がけ、今後も一層の努力を続けていきたいと思えます。



リハビリテーション科 主任 盛 允彦

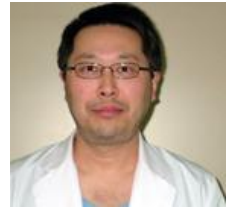
新年あけましておめでとうございます。リハビリ室は昨年より三名体制となり、「患者さんが安心してご自宅に帰られるためのリハビリの提供」を目標に日々業務に取り組んでいます。

**本年も**

**宜しくお願い致します。**



# 食事と文化



須賀川病院

外科

柿沼 雄二

「食欲」は人間の基本的欲求の一つであり、「食べる」という行為は外界とのつながりであるとも言えます。動物の世界では弱肉強食のルールが存在しますが、人間の場合は、食事をするのは単に生きるためというのみならず、食材を愛で、季節感を味わい、雰囲気を楽しみ、食事で親交を深めるといった文化的側面を持つているとも言えましょう。我々は普段、何気なく物を噛み嚥下をしています。これが、これ自体とても精巧で高度な機能です。摂取から排泄まで、その過程は巧妙で複雑です。手術の際、開腹をいたしますと、神を持たない私でさえ、「造化の神」という言葉を用いるのに抵抗がない程です。食欲という基本的な欲求が満たされ、消化・吸収という目的を果たすには多くの過程を経る必要があつて、食欲が十分に満たされないと、人間としての高邁な精神的活動も劣つてしまうかも知れません。「武士は食わねど高楊枝」と気位を高く持ちたいところですが、私慢でしかないでしょう。

ニュースで「汚職事件」と聞くと「お食事券」を連想してしまいますから。全長約9mにも及ぶ消化管の旅。

食べ物は次第に消化されながら最後は便となつて排泄されます。消化管は、まさに整然と分業化された「食物解体吸収工場」と言えます。

食物の機械的かつ化学的分解は胃と小腸で主に行われます。摂取された食物は蠕動運動で食道から胃に送られ、その容積は約1500mlにも達します。胃内で、胃液により化学的に分解され粥状になり、胃に食物が充満すると胃の出口に向けて蠕動が生じ、食後約2〜3時間で食物は殆ど十二指腸に移動します。腹腔の容積は小腸と大腸とで大部分を占められています。小腸の長さは5〜7m程あり、胃の出口に続く十二指腸に始まつて、空腸、回腸から構成されています。十二指腸には胆汁と膵液が流入し、小腸の粘膜には多くのヒダや絨毛が存し、これにより、その表面積は大きく拡大して、消化・吸収の効率を高める構造を示しています。その先に続く大腸は、約1.5mの長さで、消化されず吸収できない食物を細菌の働きで分解すると共に、水の吸収を行います。液状だった便も次第に粥状・半固形・固形となつて、直腸・肛門から排泄されます。これら消化管の他、肝臓、膵臓、胆嚢といった臓器も、消化に密接に関わります。

たまたま、これら消化管の一部に、腫瘍や狭窄ができてしまうことがあります。私たちの身体は上述の如く自然の最高目的であり、最も完備した個体です。これにメスを入れることには、双方に強い覚悟と決意が必要でありましょう。しかし、「通過障害がある」「食べる」と吐いてしまう」「オナカが苦しくて好物が食べられない」、こういった局面に突破口を作り、展望をもたすために、我々は敢然と、不都合を切除すべく乗り出していかなくてはならない時があると考えています。そして摘出すれば終わりではない。再建と吻合があることに、外科医としての尊き使命があると認識しております。これら、巧妙で優れた消化管に、敬虔なる気持ちを持って、謙虚に直向きに対峙していきたくて考えています。

「噛んで含める」「腹も身のうち」「腹八分目」「肝をひやす」「断腸の思い」「肝胆相照らす」など、これら消化管に係る表現やことわざが多いのは、消化という機能が、とりもなおさず健康の重要なテーマであることを意味すると同時に、消化という営みが我々の文化と密接に関係していることの証しでしょう。

今、日本各地で食の安全を脅かす隠蔽や偽装が行われて、残念なニュースを耳にするのが頻回です。日本人が古来より持っていたモラルや倫理を思い起こし、食べるという行為への敬虔な気持ちと感謝を忘れたくはないものです。

適切な食事を保つためにも、健全な精神、正しい生活習慣、そして定期的な検査が肝要でしょう。消化吸収の妙、その神秘的で調和のとれた営みを守るために、その一翼を担えればと考え診療に取り組んでいます。

検査は怖い・つらい、と言われる方がいます。しかし、それ以上に、もたらされる利益の方が大きいと言えます。事実、内視鏡検査の進歩は多くの命を救命してきました。その点、当院では、さらにストレスの少ない検査が可能です。例えば、経鼻内視鏡。従来の口からの胃カメラですと嘔吐反射の強い患者さんには些かつらい検査でしたが、当院では細いカメラを鼻から挿入して観察が可能ですので、検査後に「本当に楽だった」と言われることがしばしばです。疾患の中には早期には殆ど症状のないものもありますので、検診を受けて頂くことで早い段階で見つければ治癒も十分に図れます。内視鏡的にポリープを切除する治療も行っていますし、病気を発見しにくい肝・胆・膵領域を専門的に診断できる医師もおります。術後に、どういう食事が適切か、栄養・食事指導も行っていますし、当院の食事も本当においしいと思います。また、たとえ経口的に嚥下が不可能になった場合でも、経腸栄養など多岐にわたる治療手段を講じ、栄養保持に貢献できる選択を準備しております。



食べ物を手に入れるためには、長い時間と労働、そして自然の恵みが大切であること。私たちは学んできました。私たちの口にしているものの多くは、動物や植物の「命」。いわば、他の生物の命を授かって命をつないでいるとも言えます。丹精こめて作って下さった人々の努力と汗をも感じます。正月と言えば、「おとそ」、「おせち」、「雑煮」、「七草がゆ」。「おとそ」は、邪気を祓い不老長寿を願う薬酒として、新年になると年少者から順番に飲んだのが始まりとされています。「おせち」は、年神様に供えるための供物料理であると共に、家族の繁栄を願う縁起物の家庭料理でもありました。「雑煮」は、最初に雑煮を食べ胃を安定させてから酒宴に移るための前菜だったものと言われています。「七草がゆ」は、信仰的な側面ばかりでなく、正月の御馳走で疲れた胃腸を休め、青菜の不足する冬場の栄養補給をするという実利的な効用も併せ持ったようです。これら全てが生活の知恵であり、豊かな人生観の表れだと感じます。かくのごとくに、食事と文化は密接な関係にあると言えましょう。

消化管は、生命を維持していくのに不可欠な栄養を体内に取り込むという重要な働きをしていますが、タバコやストレスで無理をかけてしまいがち。この偉大なしくみに敬虔な気持ちで謙虚に対峙し、不都合があれば、それを発見し、必要に迫られれば取り除いてさしあげたい、そういう気持ちで私たちは今年も診療に当たる所存です。



## 七草粥



一月七日、七つの野草を摘んでお粥に入れる「七草粥」。なんと鎌倉時代から今に伝えられているというほど由緒正しいもので、魔よけ、豊作祈願、無病息災祈願など様々な願いがこめられた七草粥は、同時に「医食同源」の知恵を生かした健康食です。

調理はあらかじめ、六日の晩に行なうのが慣わしでした。その際、すりこぎ、おろし金、火ばし、杓子などの調理器具をまな板の上に揃え、野草を四十九回刻みながら「七草なずな、唐土の鳥が日本の土地に渡らぬ先にストントントン」などと歌うのです。カロリーは一杯で約140kcalと低いので、お正月のご馳走でオーバーした体重を戻すにはもってこいです。

- ★セリ『競り勝つ』・・・冷え性・風邪・貧血を和らげる。
- ★ナズナ『撫でて汚れを除く』・・・血圧を下げる。(ぺんぺん草)
- ★ゴギョウ(御形)『仏体』・・・せきのどの痛みを和らげる。(ハハコグサ)
- ★ハコベ『繁栄が蔓延る』・・・胃腸の疲れをとる。口臭予防。(ハコベラ)
- ★ホトケノザ『仏の安座』・・・高血圧の予防、胃の働きを整える。
- ★スズナ『神を呼ぶ鈴』・・・体に抵抗力をつける。(かぶ)
- ★スズシロ『汚れのない清白を表す』・・・便秘の解消。(大根)

# しんぴほうこうほう 真皮縫合法について

福島県立医科大学

形成外科 舘 一史

形成外科に入りたての頃、先輩のK医師から「真皮縫合を本当に自分の思い通りにできるようになるには三年かかる。」と言われました。その時は大仰にいつているのだ、練習すればせいぜい三ヶ月だろう、などと軽く考えておりました。

六年経った今、果たして自分は本当に良い皮膚縫合法が出来ているのかと自問することがあります。最近では、皮膚縫合の経験を重ねれば重ねるほど理想的な縫合をすることの難しさを実感します。

一般に形成外科は皮膚をきれいに縫うという印象を持たれますし、常々私たちは、きれいに縫うように心がけています。もちろん、縫合法は皮膚をきれいに治す一つの要因ではありますが、全てではありません。

傷の治りには、

- ①縫合法
- ②創縁の血行

- ③傷の部位
  - ④皮膚の質
  - ⑤内科疾患の有無
- などの要因が複合的に関係してきます。それらを考えながら縫合する必要があります。

皮膚縫合は文字通り、糸を使って皮膚を寄せることです。きれいに創が治るには、

- ①創縁が密着していること
  - ②創縁に段差がないこと
  - ③創縁の血の巡りが良いこと
- が必要で、どれが欠けてもきれいな傷にはなりません。

糸が締めれば締まるほど、創縁が密着し①は満たされます。ところが、糸で締めればそれだけ、皮膚の血の巡りが遮断されて③が阻害されます。実際に、皮膚を普通に③が阻害され、縫うと寄りがよいために、創縁の密着が得られ、細い傷になりやすいという点ではよいとはいえます。

その反面、糸できつく縫ったところに血行障害が起こるために、最終的に傷に直交する糸の“痕(あと)”が出来ます。ムカデの足のようなぎざぎざした傷を見たことのある方も多いと思いますが、それは表の糸で皮膚を締め上げること、糸による血行障害をおこしているために生じています。

この一見矛盾しているように見える問題を解決するために、われわれ形成外科医は真皮縫合(しんぴほうこう)を併用します。

皮膚は表の皮膚(表皮)と内側の皮膚(真皮)に分かれますが、真皮縫合ではこの内側の皮膚に糸を掛けます。これを適度な強さで締めることで創縁が密着します。表の糸がでないために、表の皮膚の血行障害が起こりにくく、表の横のぎざぎざの痕が生じません。また、この縫合は時間が経つと溶けて吸収される糸(吸収糸)で縫合するために抜糸が不要です。

真皮縫合が終わった後は、血行障害を起こさないように、細い糸で、ゆるく締めて、表の段差を合わせます。

これが、形成外科の手術の後に、患者さんから見える糸になります。通常の抜糸は術後から、早いときで四日、遅いときでも二週間で行ないますが、形成外科の抜糸が比較的、早くできることが多いのは、実は、内側の皮膚に掛かった吸収糸が、傷が治るまで皮膚を引っ張って、密着させてくれているためなのです。

また、傷にどれだけ糸が多く掛かっていても、ぎざぎざの横の傷が出来ないのは、表の縫合を細い糸で、ゆるく締めているため、血行障害が起こらないからなのです。





# 透析室通信



今回は、透析による副作用についてお話します。

## ①不均衡症候群

透析導入期に良くみられます。透析を行うと、血液の老廃物は急速に取り除かれてきれいになり、老廃物が取れにくい脳との間に濃度差が生じます。つまり濃度の高い脳は周囲から水分を吸い取り、むくんだ状態になります。不均衡症候群は、脳がむくみ脳圧が高くなる為におこります。

症状は、頭痛・吐き気・嘔吐などです。



透析に慣ればおこらなくなりませんが、まれに症状が継続することもあります。

この場合透析困難症と呼ばれます。

## ②血圧低下

除水量が多かったり、急激であった場合は血圧が低下しやすくなります。症状は、あくび・吐き気・嘔吐・頭痛・冷汗などですが、ひどくなると意識消失などが起こります。予防には体重を増やすぎないことが大切です。



## ③出血

血液凝固を防ぐ薬剤であるヘパリンなどの使用により出血しやすくなることがあります。出血の危険の少ない抗凝固剤もあります。

## ④不整脈

心肥大や動脈硬化などがある方は、透析中に不整脈が起こることもあります。また、高カリウム血症や低カリウム血症でも不整脈が出やすくなります。予防には、血圧のコントロール、高脂血症や肥満の予防、カリウムの多い食品の制限、ストレスをためないことなどが大切です。

## ⑤血管痛

穿刺針による血管壁の刺激、血管の狭窄、血管炎、血管の収縮などで血管痛が起こります。血管炎以外は、温湿布で経過を見ますが、部位によっては血管痛があれば、穿刺部位を変えることも大切です。

## ⑥筋痙攣（こむらがえり）

筋の発作性収縮の総称で、主として急速あるいは過剰の除水、ナトリウム除去などが原因で起こります。高除水を防ぐため、体重増加に注意しましょう。

副作用の現れ方は人それぞれ異なりますが、ゆっくりとした透析で徐々に体を慣らしていくことで、その症状を軽くすることができます。原因と症状をよく理解して副作用の予防に努めましょう。

患者様のご意見を  
受け改善しました

◇新館個室のトイレに手摺をつけてほしい。

対策：・数名の患者さんからご意見を頂いておりました。

現在業者に手配中で、一月中には手摺の取付が終了する予定です。  
もうしばらくお待ち下さい。

◇駐車場を増やしてほしい。

対策：・曜日によっては、駐車場の数が足りなくて、路上駐車する車も見受けられ大変御迷惑をお掛けしておりました。  
病院北東側に三十四台分の駐車場を整備致しました。ご利用ください。

◇正面玄関のスロープが滑る、勾配がきついので改善してほしい。

対策：・鉄板のスロープで冬場は滑りやすかったため、コンクリートを塗布し、勾配も緩やかにしました。

◇今後もご意見、ご要望等ございましたら、『ご意見箱』へお願い致します。

## 病院理念

- ・生命を尊重し、平静な心で臨む医療を実践します。

## 基本方針

- ・地域に根ざした救急医療を目指します。
- ・正しい診断と早く良くなる治療方法について積極的に新しい医療技術を適用していきます。
- ・患者様と御家族の方の納得する医療を提供します。
- ・快適な療養のための環境づくりに努めます。
- ・患者様本位のチーム医療を実践します。

## 患者の権利憲章

1. 私たちは、全ての患者様が平等に、良質の医療を受けられる権利を尊重します。
2. 私たちは、患者様のプライバシーに配慮し、患者様の個人的情報等の秘密は、守られる権利を尊重します。
3. 私たちは、患者様がお自分の病名や検査等について説明を受け、それを知る権利を尊重します。
4. 私たちは、患者様がお自分の意志で病気になる治療法等について、決定する権利を尊重します。
5. 私たちは、患者様が診療の結果などについて、他の医師の意を求め、医師や病院を選択する権利を尊重します。

## クリスマスコンサート開催

昨年十二月二十二日（土）に当院外来待合室にてクリスマスコンサート「ギターで聴く世界の音楽」が開催されました。

- 第一部 スクリーンミュージック
- 第二部 クラシック曲
- 第三部 日本のメロデー

の三部構成で、演奏者 野木彰氏の素晴らしい演奏に、観客（患者さん、一般の方、職員合わせて、六十人位）の皆さんからは、大きな拍手が送られました。

演奏者プロフィール

野木 彰 氏

須賀川市出身。  
十七才よりギターを始める。  
1978年より渡辺隆氏（郡山在住）に師事。  
八十一年第一回ギタリストスアだたらに出演、第十回まで連続出演する。  
2001年 金庸太氏（大宮在住）に師事し現在に至る。  
「ダイニングバーANRI」のオーナーでもある。

## ▼ クリスマスコンサートの様子



## 編集後記

新年 おめでとうございます。  
今期のメンバーでの広報発行は冬号が最後になりました。  
春号からは、新メンバーを中心に新しい広報をお届けしたいと思います。今後ともご愛読宜しくお願い致します。